

Y18c 3度目の正直？ 画像データからの流星目視カウント回数。

戸田雅之（日本流星研究会, チーム TUSK）

高感度一眼レフデジタルカメラと明るい広角レンズを用いた秒単位のシャッタースピードによる連続撮影を行っている。当時最高感度 25,600 を達成したニコン D 3 を 2007 年 11 月に導入し、レンズやシャッタースピードの選択や実際に観測しながら試行錯誤を繰り返し、2009 年 1 月から主要流星群の流星観測を実施している。カメラセッティングは対角線画角 74 度の 28mm F/1.4 レンズにシャッタースピード 1 秒（後に $1 / 1.3$ 秒 = 0.77 秒に変更）、ISO 感度は空の透明度、観測地の光害状況に応じて 6,400 から 25,600 の間を選択して連続撮影を実施している。流星群が最も活動する極大日は容易に知ることが出来るが、個々の流星がいつ・どこで・どの方向に何等の明るさで出現するかの予測は不可能なので、写野内に流星群放射点を入れて連続撮影を行い、流星が出るのを待ついわゆる「待ち受け撮影」を行っている。1 時間 3000 コマを超える画像データセットから流星と流星痕を抽出する現時点の方法は「人力」。撮影画像を 1 コマずつ PC 画面に表示して目視で判別している。3 度見直せば見落としはより減らせるとされている。本発表では目視で抽出した流星の抽出記録から何回目で抽出したかを記録したデータを用いて解説と考察を行う予定である。